

卒業研究題目・概要届

(記入上の注意)

- ※ 本届の作成にあたっては、『卒業研究題目・概要届の手引き』を必ず参照すること。
- ※ 各項目の右の欄に、必要事項を記入すること。
- ※ 「卒業研究題目」欄には、サブタイトルは記入しないこと。
- ※ 「卒業研究の概要および研究計画」欄の字数は、300 字程度を目安とし、1 ページに収めること。
- ※ 「卒業研究の概要および研究計画」欄に、図表を掲載してはならない。
- ※ 表の罫線や余白の設定は変更しないこと。フォントサイズは大きくしないこと。
- ※ 表の枠内に収まるように記入すること。

学籍番号 <small>(※CD を含めない)</small>	1J19E058
氏名	加藤 隆聖
指導教員	菊池 英明
卒業研究題目	発話スタイルに着目した会話比較を目的とする尺度の構築
卒業研究の概要 および研究計画 <small>(※改行なしで 8 行 以上記入すること)</small>	<p>当研究では、日常会話において会話参与者間の関係が話者のパラ言語表現に与える影響を解明することに取り組む。当研究の背景として、これまでのパラ言語研究は実験音声学的手法に基づいて行われたものが多く、日常会話とはパラ言語表現の有り様が異なっていることが指摘できる。一方で音声分析に耐える音質で日常会話を大量に収集することは困難であった。国立国語研究所において開発された『日本語日常会話コーパス』(CEJC)を活用することで、多様な会話参与者間の関係を考慮した音声分析が可能になった。当研究では、各会話データに現れるパラ言語表現を比較するために、会話同士を比較可能な尺度を構築する。個人の発話を尺度に当てはめた時に、尺度の中に集中した領域が現れることが予想される。この領域を発話スタイルと捉える。パラ言語表現においては、その発話スタイルから逸脱したものと捉え研究していく。研究計画としては、定量的に尺度を構築している先行研究を参考に、多様な会話を評価することが可能な尺度を構築する。そして、構築した尺度の妥当性について検証を行う。妥当性を確認するために、日常会話が尺度上に満遍なく付置できていることや明らかに異なるような発話スタイルが近くの領域に付置されていないことを検証する。</p>